



TORINO 2006

◀東京から応援に訪れたという複合競技の女性ファン。高橋、小林、畠山選手をはじめ、日本の複合選手をプリントした手づくりの応援幕を手に早くから会場入りし、零下15度にもなる会場で競技が始まるのをずっと待っていたそうです。

▶ジャンプ会場に隣接する距離競技の会場。スキーのクロスカントリーと、ノルディック複合の距離の会場で、8000人を収容できる。全長約6200mと約3800mの2つのコースがあり、これらを交差させることで、中距離などあらゆる種目を実施した。



◀最初の種目、個人ノルディック複合。高橋選手は飛び終えた後の高橋選手。観客席からの声援に応えてくれました。しかしこの日、高橋選手は腰痛のため大勢を取って距離を棄権、団体に備えます。



▲日章旗を振って声援を送るふるさとからの応援団（11日、複合競技の会場となったプラジェラートで）

トリノ冬季五輪・ノルディック複合競技 高橋が、小林が 飛んだ、走った！

この2月、イタリア・トリノで行われた冬季五輪には、本市出身の高橋大斗・小林範仁両選手や大館市出身の畠山選手が出場、大舞台で健闘しました。両選手の家族は現地の競技会場で、そして、ふるさとでは市民がテレビ観戦で大声援を送りました。そのようすをご紹介します。



▶最初の種目、個人ノルディック複合。高橋選手は飛び終えた後の高橋選手。観客席からの声援に応えてくれました。しかしこの日、高橋選手は腰痛のため大勢を取って距離を棄権、団体に備えます。

▼まちなみが美しいトリノ市内。中央の尖塔はトリノのシンボル、モレーアントネッリアーナ塔。19世紀、ユダヤ教寺院として建設され、変遷を経て現在は映画博物館になっているそうです。黒澤明監督作品「羅生門」のポスターも展示されているとか。



高橋・小林・畠山3選手の家族の皆さんは現地で応援

2月10日から26日、現地時間まで行われたトリノ五輪・ノルディック複合競技には本市出身の高橋大斗、小林範仁の両選手、そして大館市の畠山陽輔選手ら大館北秋出身勢が出場、世界の強豪を相手に健闘しました。複合競技で行われた種目は11日の、個人ノルディック複合と、そして15日の男子ジャンプ（ノーマルヒル×2本）と距離15キを、個人ノルディック複合では小林選手が16位、高橋選手が18位と健闘しました。

手が棄権、ジャンプ（ノーマルヒル×1本）と距離15キを、個人ノルディック複合では高橋選手が15位、小林選手が18位。そして男子団体では6位とメダルには届きませんでした。が、日本人選手の健闘ぶりは、ふるさとで応援する私たちを大いに湧かせてくれました。11日に行われた、個人ノルディック複合には、日本から高橋、小林、畠山選手の家族らも駆けつけ、生の「秋田弁」で声援を送りました。広報では、小林選手の父・博さんに現地の写真撮影をお願いしました。表紙とこのページに使用している写真は小林さん撮影によるものです。

ふるさとから大声援！



▲テレビ観戦で応援する阿仁地区の皆さん（上：2月11日、阿仁ふるさと文化センター）と、高橋選手の母校鷹巣農林高校の生徒・教職員らの皆さん（下：2月15日、同校会議室で）。高橋・小林両選手をはじめ大画面に写された日本人選手に、大声援を送りました。

